

小学校で54匹のサキシマハブを捕獲



サキシマハブ



米須地区の航空写真(国土地理院)。サキシマハブが盗まれたとされる地点(左赤丸)と米須小学校(右赤丸)とは共通の林で繋がっていません。

糸満市立米須小学校で今年4月、教頭が校内の草刈り中にサキシマハブを捕獲しました。同校では児童の安全確保のために、25台のハブ捕獲器でハブ駆除を行いました。相談を受けたハブ研究室も、同校に隣接する林で、6月から捕獲を行いました。その結果10月末までに校内で54匹のサキシマハブと2匹のハブが、隣接林で33匹のサキシマハブと1匹のハブが捕獲されました。

4、5月は33匹ものサキシマハブが捕獲され、ベイトトラップ(捕獲器)による捕獲効率が、ハブの平均値の15倍という高い値でしたが、懸命な捕獲努力により、10月には1匹にまで減少しました。

同校では平成14年に隣接する林からの侵入を防ぐ防蛇壁工事が開始され、今年度中に完成する予定です。防蛇壁の完成後もハブ駆除は継続的に行うことから、次年度には校内のサキシマハブ生息数の著しい低減が期待されます。しかし、隣接する広大な林に生息するサキシマハブの駆除は容易ではなく、サキシマハブが高密度で生息している現状は憂慮すべき事態です。この林は児童が体験学習に活用していましたが、現在は閉鎖されています。

米須地区を始め、糸満市全域のサキシマハブの分布・生態調査と防除対策はまだ実施されておらず、今後早急に取り組まなければならない課題とされます。

サキシマハブは外来種

サキシマハブは、先島地方の石垣市と竹富町に生息するハブの仲間です。30年程前に糸満市米須の観光施設で、約150匹のハブとサキシマハブが盗まれ、近隣に放された(沖縄タイムス)とのことです。この観光施設(事故後閉園)と米須小学校とは、800mの至近距離にあり、共通の林で繋がっています。

米須小学校
正門。

サキシマハブが多数捕獲された校内の自然観察林。



ベイト(マウス)トラップで捕獲されたサキシマハブ。

その後サキシマハブの生息数が増加し、現在では目撃範囲が糸満市の中南部一帯に及びています。また、ハブとの雑種と推定される個体もこれまでに5匹捕獲されています。

糸満市ではサキシマハブ咬症が昭和63(1988)年以降散発していますが、平成14年は3名、今年も10月末までに3名となっています。(ハブ研究室)